

群馬大学

【NO19 群馬大学 ○-1】

	群馬大学 保健系分野 (看護学・医療技術学、学際・特定)
学部・研究科名	医学部保健学科 (第1年次:160名、第3年次:10名) 看護学専攻(第1年次:80名)、検査技術科学専攻(第1年次:40名)、 理学療法学専攻(第1年次:20名)、作業療法学専攻(第1年次:20名) 保健学研究科 (M:50 D:10)
沿革・ 設置目的	群馬大学医学部附属看護学校、附属助産婦学校、附属衛生検査技師学校を経て群馬大学医療技術短期大学部が設置された後、平成8年、看護学、検査技術科学、理学療法学及び作業療法学に関する教育・研究を行うことを目的とした医学部保健学科として設置された。 昭和24年(1949年)群馬大学設置 昭和26年(1951年)医学部附属看護学校設置 昭和40年(1965年)医学部附属助産婦学校設置 昭和41年(1966年)医学部附属衛生検査技師学校設置 昭和52年(1977年)医療技術短期大学部設置 <u>平成8年(1996年)医学部保健学科設置</u> 平成13年(2001年)大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)設置 (平成15年(2003年)に博士課程後期を設置) 平成16年(2004年)国立大学法人に移行 平成23年(2011年)大学院医学系研究科保健学専攻廃止 平成23年(2011年)大学院保健学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)設置
強みや特色などの 役割	○ 群馬大学の理念等に基づき、「全人的医療」と「チーム医療」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性を持ち、高度な技術と知識を備え、チーム医療のリーダーとなる人材を育成する。医療系の国立大学として充実した研究環境を活かし、保健学研究を推進する研究者の育成や教育者の育成を積極的に推進する。 ○ 専門外来のモデル構築をはじめとする保健学科と附属病院との連携による実践・教育・研究の統合(ユニフィケーション)を行うとともに、社会の要請や地域住民のニーズに応えた高度専門職の育成を推進する。 ○ 途上国における保健人材育成として、教員派遣や卒後教育及び指導的人材の研修受け入れ、教育モデルの普及等を積極的に推進し、双方のグローバル人材育成を推進する。

- 医学・保健系分野間や医理工の分野連携を活かし、「保健人材教育の効果を検証する研究」、「地域包括ケアシステムに関する研究」をはじめとする、地域課題に則し、国際的な課題解決にも貢献できる研究を推進する。